

アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.



アートをたのしむ手がかり

[亀有ケアコミュニティそよ風]

〒125-0061
東京都葛飾区亀有1丁目12-3
03-5629-6921

アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.

「アートあ」は、アートアクションの愛称。はじめてアートにふれてみる。毎日にアートをプラスする。アートをとおしてモノや社会の見え方が変わる。そんな「あ」とする感動や体験をしていただきたい。その思いからスタートしたプロジェクトです。

CONTENTS

002

WINTER 2023

- 03 アートの紹介 — アートの風 —
- 07 BGMの紹介 — 音のそよぎ —
- 11 香りの紹介 — 香り立つ… —
- 13 フラワーの紹介 — 季節を愛でる —
- 15 寄稿エッセイ
— 音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)
[クラシック・ソムリエ 田中 泰]

発行/株式会社
編集長/サトマキ()
編集・構成/栗原 勲(RED)、下村 尚明()
アートディレクション・デザイン/蔵持 一石(RED)
校正/戸倉 久美、大山 徹(亀有ケアコミュニティそよ風)

アートアクション・タイムズ 編集手記

こんにちは。亀有のみなさんにはおなじみ、サトマキです。

さて、夏からはじまったアートアクション、みなさまの施設・亀有ケアコミュニティそよ風では、現代アートの展示、フラワーデザイナーさんによるお花、アロマセラピストさんによる香り、プロの選曲家さんによる多彩な音楽、そしてファシリテーターによる対話型鑑賞を実施しました。今回はその広報誌二号目です。

対話型鑑賞、いかがでしたか？毎回異なるテーマのもと、名画と言われる絵画をみなさんで鑑賞して、観るだけでなく、対話をすることによって鑑賞を深めましたね。みなさんが思ったこと、思い出したこと、感じたこと、なんでも話してくださってありがとうございました。他の方の意見を聞くことで、「こんな考え方、感じ方もあるのか！」と毎回思いもかけない意見が聞けましたよね。「そう言われれば…」と別の見方に気づいた方、それでも私はこう思う、など、その意見も様々だったと思います。対話型鑑賞を楽しんでくださったら幸いです。

現代アートの展示、フラワーデザイナーさんによるお花、アロマセラピストさんによる香り、プロの選曲家さんによる多彩な音楽はまだ続きます。ぜひ楽しんでくださいね。



FINE ART

アートの紹介

アートの風

みなさんの施設に飾ってある作品は、現代アートといって、現代（今、同時代を生きている）のアーティストさんが描いた作品です。

これらはみな、個人のコレクターさん（所有者さん）からお借りしてきた作品群です。その所有者さんの、このコレクションに込めた思いを伺って来ました。今回はあおばさんです。



art collector

あおばさん 会社員

私は、都内在住の会社員です。私がコレクション・アート収集を始めたきっかけは、妻が娘の出産のため里帰りしているタイミングで、気になっていた小松美羽さんの展示を拝見して、力強い作品に圧倒されたことと、娘が産まれる記念にもなると思い作品を購入したことです。2018年のCAF賞にてスクリプカリウ落合安奈さんの作品を拝見してから、落合さんはじめ若手作家さんの作品を中心に、自分の中に何かが残った作品を購入しています。自分の中で動いた感情や感動など残して

おきたいという意味が強くあるように感じております。若手作家さんを購入する理由には、これからの活動を長く追っていけるということ、比較的購入しやすいこと、まだ表現が固まっていない粗削りな部分もありますが、変化も含めて面白みを感じていることなど、そういったコレクションが自分には向いているのだろうと思います。今回はその中から、どういった作品なのだろうと目に留まるような作品を選んでみました。



FINE ART 001

山田 康平
Kohei Yamada

drawing

455×380mm 油彩画 2020年

作家プロフィール：1997年大阪府生まれ。2020年度武蔵野美術大学油絵学科油絵専攻卒業。2022年京都芸術大学修士課程美術工芸領域油画専攻修了。主な個展に、「それを隠すように」(biscuit gallery、東京、2022)、「のぼり、おりる」(ギャラリー美の舎、東京、2020)。



FINE ART 002

山田 康平
Kohei Yamada

drawing

410×318mm 油彩画 2020年



art director サトマキ

タイトルをみる。
そこから、あなたのアートの旅がはじまります。

みなさん、こんにちは。サトマキです。前の号で、現代アートについて少し話をしました。今回は、現代アート作品を楽しむに観る方法をお知らせします。

「キャプション」、ありますよね。作品の下に何が書いてある、小さな紙です。そこには、アーティスト名、作品名、制作年、サイズ、メディア(その絵画が何から出来ているか)が書いてあります。例えば、谷原菜摘子さん「新竹取物語―邂逅―」(1階廊下の絵画)。確かにどう見ても竹取物語です、そこに「邂逅(かいこう)」「めぐりあいの意味」と付いているのは何か意味があるのでしょうか?かぐや姫は月の世界からやって来た者。その者と、人間の邂逅?よく見ると動物たち、猿、鹿、兔?もいますね、地球上の生物との邂逅?左上に黒い大きな●が描かれています、もしかしてそれが月?などなど、タイトルをもとに絵を観て考えると、色々なことが浮か

びますね。

こんな風に、タイトル(題名)ひとつとっても、その作品をいろいろ考えることが出来るのです。もちろんタイトルで分からないタイトルもあります。Untitled(無題)とかUnnamed(名無し)とか数字の羅列とか。どうして無題なんだろう、何が書いてあるんだろう、そこから絵のことを考えて欲しいから、作家はそう付けているのかも知れませんよね。

みなさんと私が飾った現代アートについて話をすると、分かりにくい、理解が難しい、という話を聞きます。アート、とつづきにくいですよ。良く分からないですよ。それで良いんですよ。アートを分かる・理解する必要なんて無いのです。でも、みなさん、何が描かれているのか興味はおありのようですよ。その時、手助けになるひとつが、「タイトル」です。世界で最も有名な絵画のひとつレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ

リザ」、原題は「La Gioconda」ですが、どうして日本ではモナリザと呼ばれているか。それは、ダ・ヴィンチがフランチェスコ・デル・ジョコンドから妻モナ・リザの肖像画制作の依頼を受けたからだそうです。Monnaは私の貴婦人との意味だそうです。

こんな感じで、私が挙げた実例もそうですが、タイトルには、その絵の由来や何が描いてあるかを紐解く鍵が詰まっているのです。解説は何も無いですが、どうぞタイトルから、アートを感ずる考えるきっかけにしてみてください。まずはいったん、自分が興味があるか、どう感じるかを考えてみる、それだけに集中してください。そしてどうしてそう思う?と考えてみてください。何か良いな〜と思ったら、タイトルを見てみてください。そこから、あなたのアートの旅が始まります。

MUSIC

BGMの紹介

音のそよぎ

この亀有ケアコミュニティそよ風には、音楽セレクトターさんたちが厳選した楽曲が、BGM（バック・グラウンド・ミュージック）として流れています。
亀有オリジナルセレクトの1週間をどうぞお楽しみください。

producer

清宮 陵一 さん

NPO法人トッピングイースト理事長/合同会社ヴァイナルソユーズ代表

1974年東京都生まれ。音楽プロダクション・ヴァイナルソユーズではさまざまな音楽家らと協業する傍ら、特別なヴェニューや公共空間でのパフォーマンスを多数プロデュース。トッピングイーストでは地元・東京都に根差したプログラムを展開。2021年『隅田川怒涛』を実施。

今回お聴きいただく音楽は、一週間をひとつのサイクルとして、1日の目覚めから眠りまでの時間を意識できるつくりにしました。また、情景が浮かんで、まるで日本中を世界中を旅する感覚を持てたり、ときに人生を懐かしみ昔話に花が咲く、誰もが知る曲もかかります。プロの選曲家による多彩な音楽をお楽しみください。

医療的視点での
アドバイザー



医師、医学博士

稲葉 俊郎 さん

軽井沢病院 院長・総合診療科医長、信州大学社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東北芸術工科大学客員教授を兼任(山形ピエンナーレ2020 芸術監督 就任)

単著『いのちを呼びますもの』、『いのちへのいのちへ』(アノニマ・スタジオ)など。

MUSIC SELECTOR

03



ライター

大石 始 さん

地域と風土をテーマとする文筆家・選曲家。旅と祭りの編集プロダクション「B.O.N」主宰。著書に『盆踊りの戦後史』(筑摩書房)、『奥東京人に会いに行く』(晶文社)、『ニッポンのまつリズム』(アルテスパブリッシング)、『ニッポン大音頭時代』(河出書房新社)など。オンラインラジオ「WAH! Radio」で各地の民族音楽を紹介する番組「folkloric」を担当。現在の連載に月刊「東京人」の「まちの記憶、音の風景」など。

MUSIC SELECTOR

02



音楽家

蓮沼 執太 さん

1983年、東京都生まれ。「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、インスタレーション、パフォーマンス、彫刻、映像、プロジェクトなどを制作する。アジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)のグランティ、文化庁・東アジア文化交流史に任命されるなど、国外での活動も多い。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

MUSIC SELECTOR

01



クラシック・ソムリエ

田中 泰 さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スプートニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

ライター

大石 始さん

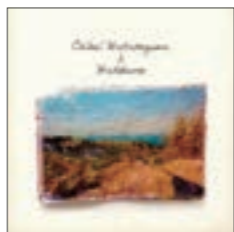


SELECT 主な楽曲

入所者の方々が日々暮らす空間でどんな音が鳴っていたら心地いいだろう？ そんなことを考えながら作品を選ばせていただきました。朝は爽やかな空気に溶け込む静物画のような作品を。昼は他の入所者の方との会話のきっかけになるかもしれない童謡やわらべうた、民謡を。夜は時に健やかな眠りへと誘い、時に懐かしいあの時代へタイムスリップする作品を。皆さんの暮らしにちょっとした色合いを加えることができれば、これほど嬉しいことはありません。



■曲名:1 ■作曲家:AOKI, hayato
■主な演奏家:AOKI, hayato ■録音年:2020年 ■アルバム:MITATE2



■曲名:It is, it isn't ■作曲家:Chihei Hatakeyama & Hakobune
■主な演奏家:Chihei Hatakeyama & Hakobune ■録音年:2014年



■曲名:波 ■作曲家:冥丁 ■録音年:2018年 ■アルバム:夜分



■曲名:Circle Of Life ■作曲家:原摩利彦 ■主な演奏家:原摩利彦 ■録音年:2017年

音楽家

蓮沼 執太さん



SELECT 主な楽曲

音楽は目に見えないものではありません。一日の時間の变化に寄り添うように、な万世不刊な楽曲をセレクトさせてが空間におとずれて欲しいと思って

すが、空間を彩る力があります。一空間の彩りを淡く変化していくよういただきました。常に新鮮な空気感があります。



提供:日本コロムビア

■曲名:ジムノベディ 第1番 ■作曲家:エリックサティ ■録音年:2017年 ■アルバム:エリックサティ、新・ピアノ作品集



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:Thembi ■作曲家:Pharaoh Sanders ■録音年:1971年 ■アルバム:Thembi



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:Thursday Afternoon ■作曲家:Brian Eno ■録音年:1985年 ■アルバム:Thursday Afternoon



提供:日本コロムビア

■曲名:小さな空 (Instrumental) ■作曲家:武満徹 ■主な演奏家:Choro Club ■録音年:2011年

クラシック・ソムリエ

田中 泰さん



SELECT 主な楽曲

まずは、クラシック史上最大のヒット曲の1つ「四季」を楽しんだ後は、ヘンデルの名作「メサイア」へ、名高い「ハレルヤ・コーラス」が心にしみみます。同じヘンデルの「ハープシコード組曲」は、同年生まれのJ.S.バッハ作品に引けを取らない素晴らしさ。キース・ジャレットの美しいピアノが引き立ちます。そして最後は20世紀最大のクラシックイベントと謳われた「3大テノール」の華やかな歌声で締めくくり。



提供:ワーナーミュージック・ジャパン

■曲名:ヴィヴァルディ:協奏曲集『四季』/Vivaldi:Four Seasons ■作曲家:ヴィヴァルディ/Vivaldi ■主な演奏家:アンネ=ゾフィー・ムター Anne-Sophie Mutter(ヴァイオリン & 指揮)、トロンハイム・ソロイスト Trondheim Soloists ■録音年:1999年



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:ヘンデル:オラトリオ「メサイア」(全曲)/Messiah, K. 572 ■作曲家:ヘンデル/George Frideric Handel ■主な演奏家:ゲオルグ・ショルティ Georg Solti(指揮)、シカゴ交響楽団 ■録音年:1997年



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:ハープシコード組曲集/Keyboard Suite ■作曲家:ヘンデル/George Frideric Handel ■主な演奏家:キース・ジャレット Keith Jarrett(ピアノ) ■録音年:1993年



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:ベスト・オブ・3大テノール /The BEST of 3TENORS ■作曲家:ドヴォルザーク/Dvořák ■主な演奏家:ホセ・カレーラス José Carreras、プラシド・ドミンゴ Plácido Domingo、ルチアーノ・パヴァロッティ Luciano Pavarotti ■録音年:1990年、1994年、1998年

朝の香り「朝の森」



ローズマリー



レモン



フランキンセンス

朝の森のエネルギーを深呼吸

朝の森には、朝露に輝く植物の息吹が満ちています。足もとから、ふくよかな土の香りが立ちのぼり、思わず深呼吸したくなります。グリーンで爽やかなローズマリーやレモンには、心をリフレッシュさせ、頭脳を活性化させて思考をクリアにする作用があるとされます。朝の清々しい森の香りで、最高の朝をスタートしましょう。

夜の香り「夜長の寛ぎ」



ラベンダー



オレンジ



パチュリ

上質なプライベートタイムを

文学や芸術などの世界に心ゆくまで没入、上質なプライベートタイムをイメージした香りです。内面が豊かに満たされる贅沢なひととき。ラベンダーやシトラスの香りがリラックスタイムに寄り添い、大地のように温かなパチュリーの香りが明日へのエネルギーとなって上質な睡眠をもたらします。

AROMATHERAPY

香りの紹介

香り立つ…

玄関ホールで、何やら香っているんですか？
良い香りだと思われましたか？そうですね、実は、今回、新たに香りを導入しました。
実はこの香り、香りのプロが施設に合わせて調香（香りを調整すること）してくれた、特別な香りなのです。これから、季節に合わせて、毎回少しずつ香りを変えて、みなさんにお届けします。



IFAアロマセラピスト
アロマスペースデザイナー

大橋 マキさん

頬に触れる空気に、ふと冬の匂いを感じた経験はありませんか？そんなとき、目に飛び込んでくる風景や色、温度、手触りなども香りのヒントにしています。「朝の森」は、ローズマリーやミント、ライムなどの爽快感に、スパイシーなハーブと樹脂特有の重さが加わることで、落ち葉が土にかえっていく豊穡の季節を感じさせます。香りを調合するときは、精油の効能や身体性も意識します。「夜長の寛ぎ」は、安眠を促すラベンダーとシトラスの優しい甘さのなかに、大地を感じさせるパチュリという精油を加えることで包容力や温かみを添えています。

大橋 マキ Maki Ohashi / IFAアロマセラピスト / アロマスペースデザイナー 放送局を退職後、英国に留学。植物療法を学ぶ。アロマセラピストとして6年間の病院活動を経て、アロマ空間演出の他、精油の地産地消や企業ブランディングにも従事。自身が代表を務める一般社団法人はっぶでは、園芸療法を用いた認知症ケアや農福連携にも取り組む。アロマブランド「aromamora」では季節のブレンドを製作。執筆、ラジオ出演、講演多数。

FLOWER

季節を愛でる

フラワーの紹介

このページでは、施設に飾られているお花を紹介しています。

毎月、その時節に合わせて旬なお花を選んでデザインしたフラワーアレンジメントを飾っております。

身近にお花がある日常を通じて、季節を感じていただきたいと思います。



フラワーデザイナー&スタイリスト

松本 由利 さん

日本には四季折々の花々、木々があります。季節を愛で、感じ、味わう…食や文化と同じように花の装飾でも季節感を表現します。そのため、フラワーアレンジメントには、なるべく旬の花を使うようにしています。写真は、秋から冬にかけて飾ったアレンジメントです。ずっと伸びているグリーンはニューサイラン。シンプルでモダンなデザインでありながら、明るい色合いのトルコキキョウを使うことで優しい雰囲気仕上げました。花のある生活で、どうぞ季節をお楽しみください。

松本 由利 Yuri Matsumoto / フラワーデザイナー&スタイリスト

英国人デザイナー、ジェーンパッカーの元でデザイナー、インストラクターを務めたのち独立。「花と食」「花とインテリア」といったさまざまな分野とのコラボレーションレッスンを企画運営。スタイリッシュな花を得意とする。フラワーショップkusakanmuriが主催する「草冠の学校」でも講師をつとめる。



イタリア史上最も 重要な人物と評された ジュゼッペ・ヴェルディ

みなさんこんにちは。施設内に流れる音楽はいかがでしょうか？ 僕が担当するクラシック音楽も気に入っていただけたらくとも嬉しいです。さて、連載2回目となる今回は、イタリアのオペラ作曲家ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)についてです。

19世紀を代表する作曲家ヴェルディは、主にオペラを軸に作曲活動を行い、「オペラ王」の異名を持つイタリア・ロマン派音楽の中心的存在です。代表作としては、『ナブッコ』、『リゴ

レット』、『椿姫』、『アイーダ』などの

オペラ作品のほか、イタリアの文豪アレックスサンドロ・マンゾーニ(1785-1873)の死を悼んで作曲された『レクイエム』などが有名です。彼が遺した作品の数々は、現在も世界中のオペラハウス(歌劇場)で演じられ、『アイーダ』の大行進曲がスポーツ・イベントの応援に使われるほか、『ナブッコ』の「行けわが思いよ、金色の翼に乗って」はイタリア第二の国歌として愛されるなど、ジャンルの枠を超えた広がりによって、大衆文化に深く根付いています。ヴェルディが活躍した当時、イタリアは統一運動の真只中にあり、祖国イタリアへの愛を高らかに歌い上げたヴェルディ作品は、統一運動のシンボル

術や文化、スポーツ等、共通の価値観がコミュニティ形成に重要な要素となることが理解され始めています。ヴェルディが思い描いた「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」こそは、まさにそのモデルケースと言える存在感を放ち続けています。そして、ヴェルディ自身もこの施設の敷地内に、愛する妻とともに静かに眠っています。

*この「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」をモデルとして制作されたのが、ダスティン・ホフマン監督による2012年公開のイギリス映画『カルテット! 人生のオペラハウス』です。興味のある方はぜひご覧になってみてください。

とみなされるようになったのです。その結果ヴェルディは、イタリア史上最も重要な人物と評され、ユーロに変わる前のイタリア紙幣(1000リラ)に肖像が採用されるまでになったのでした。

私財を投じて建設した 音楽家のための高齢者住宅 カーサ・ヴェルディ

そのヴェルディが遺したもう一つの遺産にして、「自らの最高傑作」と語ったのが、ミラノにある「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」です。これは、恵まれない音楽仲間の晩年を憂いたヴェルディが、私財を

投じて建設した音楽家のための高齢者住宅です。施設の運営資金には、ヴェルディの死後50年に及ぶ作品の著作権が当てられています。著作権が切れた1962年以降は、多くの篤志家の援助によって施設は存続。現在も多くの音楽家たちが暮らしています。入居資格は、ヨーロッパ市民で65歳以上のアーティスト、作曲家、指揮者、歌手、オーケストラ団員、音楽教師、合唱団員、バレエダンサーおよびその配偶者、未亡人が対象で、入居費用は年金の額などによって決まるのだとか。今では、入居者たちが施設内で音楽を楽しむほか、音楽家を目指す若い学生たちとのコミュニケーションの場にもなっているというのですから素敵です。これはまさに、今の時代を予見したかのような、ヴェルディの「先見の明」と言えるでしょう。日本においても、芸



クラシック・ソムリエ
田中泰さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スポーツニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

MEMO

